

北海道富良野緑峰高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和6年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1) 日本農業技術検定3級合格の100%を目指す。 (2) アグリマイスターシルバー取得の50%を目指す。 (3) 3年生の進路決定率100%を目指す。	A	(1), (2) 日本農業技術検定やその他資格の合格率向上を目指す講習会などの実施。 (3) 生徒個々に応じ、進路実現のための支援、指導を充実させる。
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1) 世界の農業情勢について理解を深める授業を各学年2時間以上実施する。	A	(1) 農業と環境、野菜、草花、農業経営などにより、世界の農業情勢に関する学習を深める。
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1) 地域農業についての学習を深める授業を各学年それぞれ4時間以上実施する。	A	(1) 東大演習林との連携学習、幼稚園、小学校との連携学習、インターンシップや農場視察を実施する。
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1) 近隣の先進農家や先進的な農業関連産業に携わる方の講演会を1回以上実施する。	A	(1) 将来生徒の農業経営や農業関連産業に向け、刺激となるような視察先や講師を考慮しながら実施する。
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1) SDG'sに関する学習を各学年2時間以上実施する。 (2) 農薬、肥料などの適切な施用を基準に従って確実に実施する。	B	(1) 農業と環境、農業経営などの授業でSDG'sに関する学習を実施する。 (2) JAふらのの施用基準を遵守した栽培管理の継続実施。
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1) 5つある専攻班において地域課題の解決や地域の資源を活用したプロジェクト学習を100%実践する。	B	(1) メロンハウスの有効利用、ふらのワインの絞りかすの利用、地域を代表する花材を利用したガーデニングなど地域資源を活用した教育活動を実践する。
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1) 農業科目においてICTを活用した授業を100%実施する。 (2) 農業クラブ行事やイベントにおいて確実にICTを活用し、知識や技術を進化させる。	B	(1) ICT活用において教員の技術を深める研修をする。 (2) 昨年度までの活用実績を活かし、さらにICTを活用できるようにする。
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1) 農業教育において地域の過去に起きた自然災害などに触れる授業を各学年1時間以上実施する	B	(1) 水害で堤防が決壊した場合、いち早く被害を受ける立地であるほか、活火山も地域にあるため、授業、実習において防災意識を常に持たせる教育を実践する。